

東洋紡株式会社 2025 年度 第 1 四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2025 年 8 月 8 日（金） 10:00～10:50

場所：WEB 形式

説明者：執行役員 CFO 管理部門統括 斧 泰三

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：包装用フィルムの収益性の改善は進んでいるのか？

A：製品価格の改定について、原燃料価格高騰分だけでなく、物流費や人件費等の上昇分の転嫁についても交渉を進めてきている。1Q では、製造コストも含めた製品価格改定が実現し、収益性が改善している。

Q：“コスモシャイン SRF（以下、SRF）”の需要の現状と見通しは？

A：パネルメーカーの稼働率は調整局面にあるが、SRF の需要は大画面化の影響もあって堅調であり、フル生産フル販売の状況が続いている。通期では前年度に対し横這いの見通し。

Q：セラミックコンデンサ用離型フィルム（以下、MLCC）の需要の現状と見通しは？

A：1Q は、販売が拡大したものの、車載用途において、米国相互関税の影響から需要の前倒しが見られ、2Q 以降、その反動を受ける可能性がある。市場全体としては拡大基調にある。

Q：フィルムの 25 年度見通しについて、1Q の水準からすると保守的に見えるが、その理由は？

A：上期には、MLCC の米国相互関税の需要前倒しの反動影響が予想されることに加え、下期には、SRF の生産能力増強のための既存ライン改造に伴う費用の増加を見込んでいるため。

Q：ライフサイエンスは上期から下期にかけて改善する見通しになっているが、その理由は？

A：1Q は、バイオは生化学診断用原料酵素の前期の生産性低下の影響が残ったが、今後、順次改善していく見込み。メディカルは、人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場について、1Q からの販売が遅れているが、2Q の下旬から 3Q の上旬には、販売に寄与していく見込み。

Q：環境・機能材は改善してきているように見える。その理由は？

A：エンジニアリングプラスチックの価格改定が進捗したことと、バイロン・ハードレンの欧米向け塗料・接着用途が回復し、東南アジア向け電子材料用途の販売が拡大したことに加えて、構造改善を進めている不織布マテリアルの収益性改善が進んでいることによる。

Q：通期の増減分析の見通しにおいて、売値因が 1Q の達成度からすると少ない印象。その理由は？

A：フィルムなどの価格改定は段階的に進めてきたものであり、売値因の実現は、当年度の 1Q から 4Q へ進むに従って、少なくなる見通しである。

以上